

アイディアをカタチにして 新たな事業を切り開く

グローブライド株式会社（東京都東久留米市）

「釣用品」「ゴルフ用品」「テニス用品」「サイクルスポーツ用品」等を製造・販売。
世界中の人々に、人生の豊かな時間を提供する「ライフタイム・スポーツ・カンパニー」です。

現在、多くの企業で「新規事業」が課題になっているのではないでしょうか？

グローブライド株式会社では、新商品の「試作製作」でMDX-50とMDX-540S-APが活躍しています。

業種	釣用品等の製造・販売
導入部署	研究開発部
使用目的	「型製作」「試作製作」等
使用システム	Fusion360 Autodesk Inventor

技術力を生かし 新規事業に取り組む

弊社は、「釣用品」や「ゴルフ用品」「テニス用品」「サイクルスポーツ用品」を製造・販売しているメーカーです。2009年に、社名を「ダイワ精工株式会社」から「グローブライド株式会社」に変更し、2016年には新規事業に取り組む部署が新たに立ち上りました。

長年に渡り、釣用品を開発してきたため、特にカーボンの技術には自信を持っています。その技術を生かし、新たな商品開発に挑戦していますが、その時に、欠かせないのがMDX-50とMDX-540S-APです。

「試作」のために MDX-50を導入

新規事業に取り組むことになって、苦労したのが「試作品作り」です。

新たなスポーツ用品の開発に取り組んでいたのですが、手作業で試作品を作っていたため、とても時間がかかりました。

部署が立ち上ったばかりですので、数千万円のマシンを購入することはできません。低価格で加工精度の良いマシンを探していた時に、見

BEFORE	<ul style="list-style-type: none"> ■ 手作業で試作品を作っていたため、時間がかかっていた ■ 「型製作」のコストと時間が課題だった
AFTER	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 機械化により、作業負担が軽くなった <input checked="" type="checkbox"/> 内製化することで、コストと時間を削減できた

つけたのがMDX-50でした。導入し、試作品製作を機械化したところ、作業負担が軽減し、またサイズの変更や調整を行う際にも対応が可能となりました。

「型」「治具」にも活用

MDX-50に続いて、MDX-540S-APを導入したのは「アルミ型製作」のためです。

カーボンを成型する時に型が必要になります



カーボンを成形するためのアルミ型



グローブライド株式会社
フィッティング生産本部
研究開発部
NB二課 研究員
川村 拓司 氏

グローブライド株式会社
フィッティング生産本部
研究開発部
NB二課長
及川 勝広 氏

が、外注すると高額な費用がかかってしまいます。上下型を作ると、最低でも10万円はかかります。

加えて、完成するまでに結構な時間が必要になります。「こういうものが作りたい」という場合、時間がない状況がほとんどなので、3日後位には型が欲しいのですが、外注業者に依頼すると時間がかかってしまうこともあります。

「日数削減のためには、自分たちで型を作るしかない」と考え、MDX-540S-APを導入することにしました。

導入したことでの大幅なコストダウンと日程短縮が実現しました。1日半あれば型を作ることができるようになりました。

今では、この2台で「アルミ型製作」「試作製作」「追加工」「治具製作」の全てを自社内で対応することができるようになりました。

例えば、カーボン素材の試作品を作るとときは、まずアルミ型を作ります。その型を使い、成形品を作ります。

最後に、成形した品の端面をきれいに仕上げる

のですが、その追加工をMDX-50でおこなっており、ワークをセットする治具も同じ機械で製作してます。このように、試作品を作る工程でフル活用しています。

新商品開発に なくてはならないもの

MDX-540S-APを実際に使ってみて驚いたのは、想像以上にキレイに仕上がることです。カーボン製品を作ることの多い私たちにとって、カーボンを削ることができるもの非常にありがとうございます。硬質発泡体やABS、ナイロンといった樹脂素材もよく使います。

どちらのマシンも、本体サイズの割には、加工面積が広いところも良いところです。常時稼働していますが、故障がほとんどないのも助かります。あとは、価格ですね。低価格でありながら、この性能はスゴいと思います。費用対効果がとても高いです。

最近は、試作品を作る機会がさらに増えています。アイディアレベルでも、とりあえずカタチにして検討してみることが多くなりました。

先日も、経営幹部に商品案をプレゼンすることがあったのですが、実際に試作品を作って提示しました。新商品の場合、そのアイディアも大事ですが、実際のモノを見もらった方が「これはいいね」とすぐに理解してもらえて、話が通りやすくなります。

とにかく、この2台はフル稼働で使っています。これからも業界に捉われず、当社カーボン技術を様々なことに役立てていきたいと思います。



アパレルブランドD-VECのカーボン製ハンガー



カーボン技術を全面的に使用したミニチュア鉄道模型



MDX-50には自作した治具が設置